

## 生活環境影響調査書（案）に寄せられた意見書と組合の見解（概要版）

事業者として、生活環境の保全上の見地からのご意見に対する見解は以下のとおりです。

（概要版のため、いただいた意見は全体版の意見を要約しております。※質問は全体版のみ掲載）

大分類	中分類	意見要旨	見解
全般	広域	自分のところで出したごみは、（自分の町で）責任をもって処理すべき。	経済性・効率性・環境負荷の観点から、各市町単独ではなく、広域によるごみ処理事業を行うこととしています。
	情報	しっかりとした予測（健康面、環境面、財政面など）の下、当局の考えを住民に説明していったほしいと願う。	広報誌やホームページ（組合ホームページは年度内に完成予定）などにより、積極的に情報発信を行っていきます。
		広域化により住民の声が反映されにくくなることを危惧する。	施設の整備と運用に当たっては、適切に地域住民の皆様と情報共有していきます。
	調査	調査結果を見て隣に書いてある基準値と比べて少ないからと簡単に結論を出すのは疑問。 など4件	本調査は、環境省指針等に沿って、最新の知見に基づき設定された基準と適切な比較を行い、その結果、生活環境に支障を及ぼさないものと評価されています。
		基準値以内の数値でも、他個所に比べて数値が高ければ、いずれ、基準値以上の数値になると思う。	調査結果では、いずれも環境基準に適合しています。 計画施設は既存施設よりも厳しい自主基準値で運用することで環境負荷の軽減に寄与するものと考えます。
		生活環境影響調査の結果から大気質・騒音・振動・悪臭・水質・土壌汚染の全てにおいて環境基準値及び規制値を下回っているため、問題ないと思う。 など2件	今後もより、住民の理解を得られるよう、情報発信に努めます。
		もっとも影響の出にくい場所での測定をもって問題はないとする結論に合理性はないと考える。	本調査は、環境省指針等に基づき、周辺地域の現況把握を目的とした調査の項目・地点・頻度等を設定しており、いずれも環境基準を満たしています。
		調査をやり直し、再度、生活環境影響調査書を作り直すことを求める。	調査書は、改めて全編を見直しました。
		大気予測結果 ダイオキシソ類について（98頁） 転記ミスがなぜ起きたのか明らかにしてほしい。	夏季の調査結果0.047pg-TEQ/m3を0.0047pg-TEQ/m3と誤って入力したものです。
		再縦覧に関する住民説明会を開催すべき。 など3件	住民説明会に代わるものとして、見やすい新旧対照表や訂正例の資料を作成して、修正後の調査書(案)とあわせて縦覧に供するとともに、組合広報誌により誤りの概要を広報しました。
調査に訂正があった。業者には責任があると思う。業者の説明と謝罪を求める。		事業者から謝罪と再発防止策の説明を受けています。 組合でも、より慎重に臨んでいきます。	
（調査書の訂正はあったが）様々な基準値には影響ないとのことで安心している。今後はこのような事が起きないように十分気をつけてほしい。	今後もより、住民の理解を得られるよう、情報発信に努めるとともに、広域ごみ処理施設の建設・稼働に伴う周辺環境への影響については、十分に配慮し、適切に進めてまいります。		
減量化・資源化	減量化	生ゴミは土に還元する方法は考えていないのか。	生ごみの処理は、組合構成市町においてキエー口や堆肥化の実証実験などの取組が進められています。
	資源化	焼却から資源化へと進む中、なぜ焼却炉に固執するのか。 など2件	組合・構成市町では、「循環型社会の形成、ごみの適正処理に基づいた南伊豆地域全体における持続可能な地域社会の構築」を基本理念とし、3R・4Rによるごみの減量化・資源化を進めており、その上で出る、処理せざるをえないごみを焼却により適切に処理しつつ、熱エネルギーの回収や残渣の資源化を行う計画としています。
計画・建設・運営	計画	ピーク時をもって予測し、対策を立てるのが原則と思う。 など4件	環境省指針に沿って、年間を通じて代表的な時期に調査しどれくらいの影響が生じるか予測・評価しました。
		1市3町から持ち込まれるごみの車両の推定は信頼できるものか。 など4件	車両の台数は、構成市町から実績の間取りを行った結果を精査し直したものです。
		南伊豆町・松崎町・西伊豆町の3町からの小型車両の台数を現況と比べてどう推計したのか。	家庭から直接ごみを持ち込む車両は、距離や各町の取組により減少するものと見込んでいます。
		計画では、施設から持込車両等が、道路まで溢れることにならないか。	計量、ごみのピットへの投入、投入後の再計量等については、適切な運営ができるよう努めます。
		これまで焼却されてこなかったし尿汚泥や災害廃棄物の搬入台数はカウントされているか。	し尿処理汚泥は、西伊豆町は現状でも町の施設に搬入し、焼却処理していることから含まれています。 災害廃棄物の処理は非常時であり、定常的な稼働時の予測と異なることから加えていません。
		渋滞や排ガス公害、騒音による環境悪化にどう対応するのか。	廃棄物運搬車両の排ガスや騒音による影響は小さいと予測しています。また、交通対策については、必要に応じて、構成市町及び収集運搬事業者等と協力して取り組んでいきます。

大分類	中分類	意見要旨	見解	
計画・建設・運営	計画	広域ごみ処理を強引に進めるのはやめてください。この計画は中止してください。など2件	これまでに様々な議論を重ね、現施設用地を候補地とし、本調査を実施しました。本調査では、現時点での最新の知見に基づいて設定された基準と適切な比較を行っており、その結果、周辺地域の生活環境に支障を及ぼさないものと評価されております。	
	建設	54t規模の焼却炉は必要ない。	処理方式も、環境への影響や、整備・運用面など、様々な視点から検討し、人口の推移や、ごみの削減効果、災害廃棄物の処理能力の確保といった要素を検討した上で、規模を算定しています。	
		環境アセスメントの結果が訂正され報告されたことにより、この事業を淡々と進め早期の完成を望む。	周辺環境への影響にも十分配慮し、早期完成を目指してまいります。	
	運営	こどもたちや敷根公園を利用する人たちの健康に対して、市政を執り行う人たちは、もっと心を傾けてほしい。	これまでに様々な議論を重ね、現施設用地を候補地として選定しております。計画施設には、既存施設よりも厳しい自主基準値を設け、適切な運転管理を行います。	
		ヨーロッパに比べ、日本はしっかり測定されているとは言えない。特にプラスチックを燃焼すると調査以外の有害物質がたくさん出る。	計画施設の運転に当たっては、法令に従い適切な監視を行っていきます。 なお、計画施設では容器包装プラスチックの資源化を行い、プラスチック使用製品廃棄物の将来的な資源化実施も考慮した施設とします。	
		生活環境影響調査の結果から大気質・騒音・振動・悪臭・水質・土壌汚染の全てにおいて環境基準値及び規制値を下回っているため、問題ないと思う。 調査結果から大気汚染に係る厳しい環境基準をクリアーしていることを確認した。建設や稼働に当たり、生活環境に支障を及ぼさないよう、十分な配慮をお願いする。	今後もより、住民の理解を得られるよう、情報発信に努めるとともに、広域ごみ処理施設の建設・稼働に伴う周辺環境への影響については、十分に配慮し、適切に進めてまいります。	
環境	渋滞	朝から車両台数が計上され、1市3町のごみの集積場となることや伊豆縦貫道敷根ICの開設と重なり、日常的に大渋滞が発生する心配がある。 など3件	車両台数には、計画施設に勤務する者の車両も含んでいます。 施設の運用、収集運搬事業者の事業活動及び周辺交通に影響を生じさせないよう、構成市町及び収集運搬事業者等と協力して交通対策に取り組んでいきます。 また、伊豆縦貫自動車道は、周辺幹線道路の渋滞緩和に寄与するものと考えています。 なお、予測は、既存施設への搬入車両を除外せず、将来の計画車両を二重に加えたものとなっています。	
	水質	西本郷地内の普通河川並びに敷根地区を含めた地下水の調査が実施されていないが、必要ないか。	本調査は、環境省指針に沿って実施しています。 計画施設は、合併浄化槽で処理した水も、施設内で再利用する計画としているため、環境省指針により不要とされています。	
		騒音	騒音は、清掃工場の労働環境上も問題ですし、生活環境上も改善が求められる。	施設に起因する騒音については、法律等を遵守し、必要な対策を講じていきます。
			廃棄物運搬車両の走行に伴う騒音対策では不十分です。清掃工場の設置場所の再検討をすべき。	騒音対策は、必要に応じて、構成市町及び収集運搬事業者等と協力して取り組んでいきます。
		廃棄物運搬車両の走行に伴う騒音の予測で現況RSV-1に、RSV-2の増加量1.9を適用すれば65dBの基準値を超えると予測される。	自動車騒音の予測は、RSV-2における増加量を条件の違うRSV-1に当てはめることは適切ではありません。	
	環境	ダイオキシン	ダイオキシン類の調査結果が全国的に見ても高いがいかか。 など4件	調査結果では、いずれも環境基準に適合しています。 計画施設は既存施設よりも厳しい自主基準値で運用することで環境負荷の軽減に寄与するものと考えます。
今回の3か所のダイオキシン類調査（大気・土壌）で、地域全体の環境状況を判断することができるのか。 など6件			焼却施設を想定した場合、土壌のダイオキシン類は、煙突排ガスに含まれるダイオキシン類の影響を受けると考えられるため、大気質調査と同じ地点で土壌調査を行う計画としました。 排ガスの広がりや、煙突の高さが大きく影響し、煙突高を50～59mと想定した場合、概ね600m～1,000mの範囲内で影響が大きくなると想定されました。また、この範囲内においては、既存施設からの影響も、長期間にわたって一様に受けてきたと推測されることから、一定の範囲を代表する地点として、今回調査した3地点を設定しており、影響の予測に必要な現況把握は行われています。なお、下田中学校やこども園、こども園入口は近接しており、高さも概ね同じであることから、排ガスの影響は同程度と推測されます。	
中学校グラウンド・現焼却場施設内・平田川の調査地周辺でのダイオキシン類の土壌調査が必要ではないか。 など4件				

大分類	中分類	意見要旨	見解
環境	ダイオキシン	土壌のダイオキシン類の現況調査結果が高いため、調査地点の追加が必要ではないか。	現地調査の結果は、環境基準を大きく下回っており、さらに、計画施設からの排ガスによる影響は小さく、生活環境に支障を及ぼさないものと評価されています。 なお、調査地点の選定については、前述のとおりです。
		施設からの排水以外に、施設からの排気等も水質に影響を与えていることが想定される。	水中のダイオキシン類濃度に対して、影響を与えている要因を特定することは困難です。 河川水中のダイオキシン類濃度は、季節等の影響により変動することから、環境基準が年平均で設定され、複数回調査した結果の平均で評価することとなっています。 本調査では、この年平均値で環境基準値を下回っていることから、問題はないものと考えます。
		ダイオキシン類の水質の現況調査結果が高いため、調査の追加が必要ではないか。 (水質・土壌) など2件	本調査は、環境省指針等に基づき、周辺地域の現況把握を目的とした調査の項目・地点・頻度等を設定しており、いずれも環境基準を満たしています。なお、ダイオキシン類による水質の基準値は、年平均値となっています。
		調査費が当初予算の半分以下でできたと聞いている。軽減されたお金で現焼却場施設内の土壌や、水路の堆積物の調査をやってほしい。	本調査は、環境省指針等に基づき、周辺地域の現況把握を目的とした調査の項目・地点・頻度等を設定しており、予測に必要な現状把握は行っています。
		平田川におけるダイオキシン類の原因を推定するだけでなく、焼却場内の土壌、水路の堆積物の調査をすべきである。	
		ダイオキシン類等の予測が過小評価されているのではないか。	本調査では、既存施設が稼働している状況下で、環境省指針に沿って現地調査を行い、その中での最大濃度の調査結果と、計画施設の最大の影響を合成して、最大濃度出現の予測結果を求めました。予測結果でも、環境基準との比較では低くなっています。
		1市3町のごみだけでなく、大量の污泥までも燃やす計画で、2倍以上のダイオキシンを含んだ排気ガスが漂うことになるにもかかわらず現況と変わらないという予測の根拠は何か。	煙突排ガスに含まれるダイオキシン類の濃度基準について、既存施設1ng-TEQ/m <sup>3</sup> Nに対し、計画施設では10分の1の0.1ng-TEQ/m <sup>3</sup> Nという自主基準値を設けます。ごみ処理量が2倍に増えても、外に排出されるダイオキシン類の量が増えることはないものと考えます。
		バックグラウンド濃度の数値、排出ガス寄与濃度の数値など予測結果の根拠がわからない。	現地調査での現況ダイオキシン類濃度であるバックグラウンド濃度に、計画施設の煙突からの広がりを予測した寄与濃度を加えて、将来濃度を求めています。
		土壌のダイオキシン類の将来予測が現地調査の値と変化がないが、これは、20年後、30年後でもこの値が予想されるのか。	煙突排ガスによる影響はほとんどないと予測しております。
		下田市の一号炉のダイオキシン類は0.4ナノグラムとなっている。大気中の環境基準の700倍にあたる数値であり、排気ガス公害が懸念されているが、どのようにお考えか。	予測結果は、環境基準を満たし、健康に影響は生じないと評価されています。
	24時間連続運転と逆転層の影響 予測結果は二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、塩化水素などは出ているが、ダイオキシンがないのはなぜか。	ダイオキシン類については、長期的に暴露された場合に悪影響が生じるおそれがある物質のため、環境基準も年平均値で比較評価しています。	
	ダイオキシン類の汚染が心配されるため、現在の候補地での建設は反対である。 など2件	計画施設によるダイオキシン類の影響は小さいと予測・評価されており、その上で計画施設には既存施設よりも厳しい自主基準値を設け、適切な運転管理を行います。	
	大気	光化学オキシダント観測結果は、環境基準を超過しているが、今後のごみ車の増加は、環境の悪化をきたすことになるが、どのように解消するのか。など2件	光化学オキシダントの原因の一つである、二酸化窒素濃度について影響を予測しましたが、その予測結果は、環境基準と比較して十分小さいものでした。
	稼働開始時、焼却を終えた時点における環境調査を行うべきでないか。	大気汚染の現況調査は、24時間連続で7日間行っています。	
	汚染物質の拡散予想が楽観的ではないか。	高濃度が発生しやすい逆転層の発生や、ダウンウォッシュ、ダウンドラフトという条件も考慮して予測を行っており、この条件においても、大気汚染物質の濃度は健康に被害を及ぼす状況にはならないと評価されています。	
	現施設の排気ガスの総量やCO <sub>2</sub> の現況調査なくして、予測ができるのか。	現地調査は環境省指針に沿って、4季のそれぞれ7日間、既存施設が稼働している状況下で行い、予測に必要な現状把握を行い予測しています。	

大分類	中分類	意見要旨	見解
環境	大気	降下ばいじんはこども園入口のみ調査であり、これでは居住地の状況はわからない。調査結果は、基準値10以下とはいえ、3.86 t もあることは大変なことと思う。	降下ばいじんは、煙突等から出るすすの中でも比較的粒が大きく、煙突から近い範囲で降下するものを指します。この特性を踏まえ、より煙突に近い1地点で現況調査を実施しました。スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全の目安とされている、20トン/km <sup>2</sup> /30日の2分の1を環境目標と設定しています。本調査結果と比較しても十分少ない数値です。
		現状の排気ガスの排出総量並びに、有害物質の調査は実施されたのか。	本調査は、環境省指針等に基づき、周辺地域の現況把握を目的とした調査の項目・地点・頻度等を設定しております。
		有毒ガスが低濃度とはいえ、高根山、敷根の山々を越えられず市街地に漂うことになっている。煙突高50mや59mでは解決できていない。	煙突排ガスによる影響予測は、周辺の標高差や地形を考慮した上で、環境基準を満たしています。
		24時間連続運転と逆転層の影響 予定地周辺では大気逆転層ができると調査されているが、その時間帯は屋外の運動など避けた方が良いという事か。	逆転層を考慮した予測も行いましたが、健康への悪影響が生じるような濃度にはならないという結果であり、屋外での活動に問題はありません。